

# 「旧江戸川乱歩邸施設整備事業」と 大衆文化研究センターの活動について

金子 明雄

江戸川乱歩（本名・平井太郎）は、

じます。

一八九四（明治二十七年）年十月二十一日に現在の三重県名張市で生まれました。来る二〇二四年には生誕百三十年を迎えることとなります。奇しくも二〇二四年は立教学院創立百五十周年にあたる年であり、この正月に五十五年ぶりの出場で大いに話題となった箱根駅伝に関連する「立教箱根駅伝2024」などを含め、いくつかの記念事業が進行中です。その一つとして「旧江戸川乱歩邸施設整備事業」がラインナップされており、立教学院の「創立150周年記念サイト」でも、二〇二四年十月の施設開館、利用開始が予告されております。同サイトには「詳しくはこちら」と大衆文化研究センターのウェブサイトへのリンクが貼られています。二〇二三年三月末現在、詳細な情報の開示ができておりませんが、ここには、現時点でお伝えできる範囲で、「旧江戸川乱歩邸施設整備事業」の概要と大衆文化研究センターの活動・業務との関係を説明したいと存

よく知られているように江戸川乱歩はいわゆる引越魔であり、「貼雑年譜」にまとめられた本人の記録によれば、生涯で四十七軒の住まいを経験しています。現在、大衆文化研究センターとなっている豊島区西池袋の土蔵のある家に移り住んだのは一九三四年（昭和九年）年のことであり、どこが気に入ったのかは詳らかではありませんが、一九四八（昭和二十三年）年に土地と建物を買って、一九六五（昭和四十一年）年に没するまで住み続け、この家が終の住処となりました。大阪・藤田組の理事坂仲輔氏が東京の別邸として母屋を建てたのは一九二一（大正十年）、土蔵の建築は一九二四（大正十三年）であり、乱歩の生前、一九五七（昭和三十二年）年に洋館の増築を含む大規模な改修がなされ、乱歩没後の一九七六（昭和五十一年）年にも当時の平井家のご家族の生活に合わせた改築が行われています。この土地と土蔵を含めた建物は、長年にわたる平井家との縁に

より、二〇〇二（平成十四年）年に立教大学の所有となり、土蔵については二〇〇三（平成十五年）年の豊島区指定有形文化財への指定を経て、豊島区の補助によって復元、補修、補強工事を実施し、二〇〇四（平成十六年）年より一部を公開する運びとなりました。二〇〇六（平成十八年）年に大衆文化研究センターが発足し、その業務の一つとして土蔵、母屋、洋館および別棟（息子宅）で構成される旧乱歩邸の一部を公開する現在のかたちができあがりました。

土蔵につきましては、大規模な復元工事を実施したこともあり、現在に至るまで比較的良好な状態が保たれていますが、母屋につきましては、何度かの改修を施しているとはいえ、さすがに大正期の建物が元となっていますので、ここ数年は老朽化が深刻な状況になっています。最大の問題は雨漏りで、増築により屋根の形状が複雑になっていることもあって、屋根からの雨水が壁の中に入り込んでしまい、壁のコンディションも極度に劣悪化してしまっている状況です。全体として応急的な手当てでは対応しきれないトラブルも生じており、数年前より、母屋での資料保管を断念し、乱歩の蔵書や物品等の

資料については多くを別の保管場所に移して業務を行っています。大衆文化研究センター事務室のある別棟を含めて、全体的な老朽化が進んでおり、比較的新しい（とはいっても築六十六年となりますが）洋館についても外壁等の不具合が多くなっています。そのような旧乱歩邸の状況を踏まえて、立教大学としてもこの施設の整備と有効利用について検討を重ねてきた経緯があり、この度立教学院創立百五十周年の記念事業という位置づけで、二〇二四年十月をめどに施設の整備を進めることになりました。

旧乱歩邸の施設整備についての基本的な考え方は、豊島区指定有形文化財である土蔵はそのまま保存を継続し、母屋については、現状の基本的な構造をなるべく維持するが、屋根や壁、床などの全面的な改修・補強を行い、母屋とつながっている洋館については、必要な補修を施した上で可能な限り原型を留めたかたちで保存するというものです。そのような施設の整備に伴って、現在の玄関や母屋南側の展示スペースも全面的にリニューアルし、洋館応接間や土蔵入口部分も含めて、新たな公開・展示スペースを構築します。大衆文化研究センター事務室

は母屋に入り、これまで事務室のあった別棟の場所で資料を保管する予定で

す。施設整備工事の内容やスケジュールについては、現時点で具体的になっていないところもありますが、二〇二四年一月からリニューアル開館日(十月中を予定)まで、現行の旧乱歩邸公開は停止する予定です。しかしながら、大衆文化研究センターの業務である資料の閲覧・貸出等につきましては、工

で、そちらをご覧ください。

大衆文化研究センターでは、二〇二四年一月からの旧乱歩邸公開停止に先立ち、二〇二三年を「さよなら乱歩邸イヤー」と位置づけ、二〇二四年の「江戸川乱歩生誕百三十年」に向けた記念企画をスタートさせています。ウェブサイトをご覧いただければ、乱歩やその作品を愛する方々、乱歩に縁のある方々に登場していただき話を伺う連続企画を公開しており、女優の波乃久里子さんにお父上である十七代目中村勘三郎と乱歩の交流などについて平井憲太郎氏と対談形式で語っていただいた記事や、ミュージシャン、俳優など幅広く活躍されるレ・ロマネスクTOBIさん、ロックバンド「人間椅子」でギターとボーカルを担当される和嶋慎治さんのインタビューなどを掲載しています。インタビューの全体や関連する論考などは『大衆文化』にも掲載されています。今後さまざまな分野で活躍されている方々に登場していただき、「さよなら乱歩邸イヤー」を盛り上げていく予定です。また、旧乱歩邸公開に関しては、本年の五月以降をめぐりに、月・金の一般公開日の公開時間の延長、週末の公開日の追加を予定しています。旧乱歩邸の現在の姿に名残

を惜しむ機会を提供させていただくくらいです。さらには、例年開催している公開講演会に加えて、「さよなら乱歩邸イヤー」に相応しい特別なイベントを実施する準備もしております。それらにつきましては、詳細はウェブサイトでお知らせいたしますので、興味・関心を持っていただけますと幸いです。

立教学院創立百五十周年の年と重なる「江戸川乱歩生誕百三十年」に向けて、地域のみならず、乱歩ファン・探偵小説ファンのみならず、大衆文化に関心のあるみなさん、研究に従事されているみなさん、センターの資料をご利用になるみなさんのご理解、ご協力をいただきながら施設整備を進め、リニューアル開館を実現したいと考えております。その間、旧乱歩邸公開の日程や大衆文化研究センターの業務内容・日程等に大幅な変更が生じる予定です。ご不便、ご迷惑をおかけすることになります。詳細につきましては適宜ウェブサイト等からお知らせいたしますので、どうぞよろしく申し上げます。

\*

立教学院では「立教学院創立150周年記念募金」を募っております。募金は振込用紙の他、クレジットカード

決済、インターネットバンキング決済など、さまざまな方法で可能です。また、毎月・毎年の継続寄付も選択できます。個人の方からご寄付をいただいた場合、税制上の優遇措置が受けられます。なお、ご寄付の際に支援先として大衆文化研究センターを指定していただきますと、「使途指定寄付」として大衆文化研究センターが主体的に使用できる資金となります。詳しくは、「立教学院創立150周年記念募金」のウェブサイトをご覧ください。皆様のご協力を心よりお願い申し上げます。

(本学文学部教授／大衆文化研究センター長)



立教学院「創立150周年記念サイト」より